

令和4年度授業改善推進プラン

東村山市立八坂小学校 第3学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業評価を踏まえた 授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	漢字学習は、あまり定着していない。意欲に個人差がある。書きたい、覚えたいという児童も多いが、練習方法や日常的に漢字を活用とする意識の差が定着度にも表れている。助詞や接続詞、句読点を正しく活用することが定着していない児童が多い。	既習の漢字を日常的に使い、日々のノートや作文等での指導を行うほか、家庭学習等で繰り返し練習することで、漢字の習得に努める。正しく文章を書くこと、読むことを日頃から意識させ、添削や助言をする際の重点として指導にあたる。
	思考力, 判断力, 表現力等	考えをノート等を書く際、段落構成の仕方や理由、事例との関係を明確に考えて工夫して書くことが苦手な児童が多い。読書活動に意欲的に取り組むが、絵本や学習漫画を好む児童が多く、読書や音読経験による語彙力や想像力、表現力の差が見られる。	集中して読書や音読をする機会を定期的に設定し、文章や言葉に触れる、慣れる機会を確保する。個人で考えたことを、より広げられるように、ペア学習やグループ学習を通した話し合いの場を多く設ける。
	学びに向かう力, 人間性等	様々な課題に対し、前向きに取り組む児童が多い。音読や読書にすすんで取り組む児童が多い一方で、自分の考えや、その理由を書くことに苦手意識がある児童がいる。	学習課題を明確にし、意欲的に学習に取り組めるようにし、苦手な児童に個別で対応できるように指導方法を工夫する。
社会	知識及び技能	児童が住む地域や市の学習内容であることから、実際に見たり聞いたりしていることもあり、知識としては定着している。資料を活用する経験を積んでいく必要がある。	教材、教具（写真・映像）等を活用し、児童がイメージをもって学習に取り組めるようにする。ICT機器を、地図の活用や知識の定着を図るツールとして積極的に活用していく。
	思考力, 判断力, 表現力等	地域の様子、調べることの特色に対して考えることはできる。なぜ、そのような特徴があるのか、物事を関連付けて考える力が乏しい。	学習課題を明確にし、課題を解決するために考えること、関連付けることをイメージしやすいようにする。グループ活動や一人一台端末を使用した指導を多く取り入れながら、多様な考えに触れる機会を多くしていく。
	学びに向かう力, 人間性等	初めて学習する教科であるため、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。教室での学習、校外学習で経験したことをしっかりと学習の中に生かしていく。	校外学習を計画的に実施し、様々なことに興味をもたせるきっかけを作り、意欲的に学習に取り組める環境づくりを行っていく。
算数	知識及び技能	九九の習得ができていない児童が一定数いる。数のしくみやひき算に課題がみられる。	朝学習や授業初めの計算練習等を通して、特に計算領域で学習した内容を定着させていく。初めて学習する内容については、教材や導入等工夫して丁寧に指導する。
	思考力, 判断力, 表現力等	既習事項を生かして、自分の考えをもち、表現することができる児童もいれば、苦手とする児童がおり、個人差が大きい。	既習事項を全体で確認し、自分の考えを書く時間をしっかりと設け、習慣化していく。共有する時間から、分かりやすい説明の仕方や表現の仕方を全体に広め、誰でもできるように支援していく。
	学びに向かう力, 人間性等	初めての学習形態（習熟度別算数）で、自分の学習実態に合わせた授業展開をしているので、意欲的に学習に取り組むことができています。	習熟度別のクラスごとに、児童の実態に合わせて授業展開や教材を工夫することで、意欲的に取り組めるようにしていく。
理科	知識及び技能	体験や観察を通して、植物の成長や生き物の体のつくりなど基本的な知識は身に付いてきている。	観察や実験等の体験活動を多く行わせるとともに、知識を広げたり深めたりできるような分かりやすい資料や問題を提示していく。
	思考力, 判断力, 表現力等	生活体験に個人差があるが、身の回りの自然事象については一定の理解を示している。観察した際に、事象を比べながら考察することが苦手な児童もいる。	ICT機器を活用し、生活体験だけでは経験できない資料を児童に提示する。そこから多様な視点で事象について考察したり意見を交流したりする経験を増やしていく。
	学びに向かう力, 人間性等	生き物や植物に対して関心があり、すすんで観察に取り組む児童が多い。3学年から始まった新しい学習への期待感をもち、前向きに取り組んでいる。	体験活動を多く取り入れたりと、観察したことを交流する活動を多く取り入れることで、興味や関心をさらに高めていく。
音楽	知識及び技能	演奏の技能や知識は個人差が大きい。これまでの音楽に関わる経験の差が要因の一つであると思われる。	基礎的な知識・技能に限定し、繰り返し学習に取り組ませることで確実に身に着けさせる。
	思考力, 判断力, 表現力等	「まちがえた」「できなかった」という自己評価が多い。間違えないことに意識が向いてしまう。	まちがえを気にせず、終わりまで続けることで「面白い」「楽しい」実感が得られるように評価をあたえる。

令和4年度授業改善推進プラン

東村山市立八坂小学校 第3学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業評価を踏まえた 授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
	学びに向かう力, 人間性等	すすんで他人と関われる子、思ったこと感じたことをすぐ声に出して表現できる子、黙々と練習に向かう子など、様々な子供が各クラスにいる。	互いの良い所を認め合い、声を掛け合って学習に取り組む時間を設定する。
図画工作	知識及び技能	絵の具で着色する際、表し方や着色する箇所によって、水の混ぜ具合や溶く（つくる）量、使う筆の太さ等を自分で考えて調整する必要があるが、その感覚をまだ十分に習得していない児童がみられる。	自分が表したいことに合わせて絵の具を溶いたり、筆を選んだりできるよう、いくつかの例を絵カードにして示し、視覚的に理解できるようにしたり、制作の課程で自ら気付けるよう促す。
	思考力, 判断力, 表現力等	自分らしいアイデアで、題材の特性を直感的に感じて生かした作品作りができる児童がいる一方、なかなかアイデアが浮かばなかったり教師や友達作品、既存のアニメやゲームのキャラクターを安易にまねしたりしてしまう児童も少し見られる。	実際に作る過程をやって見せたり教師や他の児童の作品を提示し、いろいろなアイデア、方法の選択肢を示し、児童が自ら選んだり新しいアイデアを思いついたり既存のものを組み合わせて新しいものを生み出したりできるようにする。
	学びに向かう力, 人間性等	多くの児童が新しい作品作りに意欲的で、作品に向き合いながら思いついたことを臆せず試しているが、いつも同じようなアイデアばかりだったり早く仕上げようと急いだり簡単に済ませようとする児童も少し見られる。	おもしろいアイデア、新しいアイデア、自分らしい工夫、がんばりを見つけて認め、児童同士でも認め合えるよう日頃から言葉かけ等を心がける。児童の実態に合った興味を引く題材を設定し意欲を高める。
体育	知識及び技能	運動や遊びの経験の差がみられる。児童が知っていることや技能の個人差に配慮して授業を行っている。どのように体を動かせばよいかという知識やその感覚をつかんでいない児童もいる。	ペアやグループ編成を工夫し、タブレットや大型掲示装置を活用し考えを共有して、運動の行い方を理解したり技能向上につなげたりしていくようにする。
	思考力, 判断力, 表現力等	本時における自己の能力に応じた課題を明確にした学習を定着させたい。	学習カードや掲示物を用いたり、手本となる動画を見たりすることで、自身の課題を視覚的に理解できるよう工夫する。
	学びに向かう力, 人間性等	すすんで運動に取り組む児童が多い。きまりを守って仲良く運動することができる。学び合ったことを仲間と伝え合う力を育てたい。	運動に意欲的に取り組めるように、個人に合っためあてをもたせる。めあてに対して、学び合ったことを交流する時間を大切にしたい指導を行う。
特別の 教科 道徳	知識及び技能	道徳的な思考力が身に付いてきている児童もいるが、生活の中での道徳的な問題場面では主観的な判断で行動することが多い。また、まだまだ自己中心的な言動や行動が目立つ児童も一定数いる。授業の中では、登場人物の気持ちを考えることはできるが、それを自分のものとして捉え、実際の生活に結び付けて考えることができない児童もいる。	児童が興味をもつように、日常の身近な題材や自分たちの日常の行動を振り返ることができるようにする。友達と意見を交わす時間を設け、多様な意見を受け入れられる雰囲気をつくっていく。授業で扱った内容について、授業後の生活場面で生かせる活動を行い、実践力の向上を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等		
	学びに向かう力, 人間性等		
外国語 活動	知識及び技能	新しい表現に興味関心をもってよく聞き、意味を理解することができる。また、習った表現を使ってやり取りをすることができる。	多くのゲームや、必然性のある言語活動を充実させることで、児童が英語を発話する機会を最大限確保できるようにする。
	思考力, 判断力, 表現力等	自分の考えや気持ちを、ジェスチャーなどを交えて相手と伝え合おうとしている。一方で、相手の言ったことに反応したり、質問を返したりといったやり取りにつながらないことがある。	相手の言ったことに反応するための表現を積極的に児童に伝えていく。また、お互いの話をしっかり聞き合っている児童を授業でも取り上げ、意識付けを図る。
	学びに向かう力, 人間性等	ALTとのやり取りが楽しくできたり英語以外の言語に興味をもてたりと、他国の文化に関心をもっている児童が多い。一方で、自信がもてずコミュニケーションに消極的な児童もいる。	多くのコミュニケーション場面を設定し、教師対集団、ペア、児童同士やりとりと段階を踏んだ活動をすることで、自信をもってやりとりできるようにしていく。